

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172000572		
法人名	ミツモトハウス株式会社		
事業所名	グループホームあすなる		
所在地	小樽市幸2丁目22番2号 (電話) 0134-24-6500		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	平成19年12月20日

【情報提供票より】 (平成19年 10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤25人, 非常勤 1人, 常勤換算21.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3階建ての	1~3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費15,000 円
敷 金	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要 (平成 19年10月1日現在)

利用者人数	27 名	男性 10 名	女性 17 名
要介護1	6名	要介護2	11名
要介護3	7名	要介護4	3名
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 79.6 歳	最低 58 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋医院、兵藤歯科医院、おたるイアクリニック、三ッ山病院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市郊外の高台に立地し、ホーム内は徹底したバリアフリーで利用者が安全、安心して暮らせる環境に配慮され建物です。室内には、鉢物や年代を感じる装飾品などがさり気なく置かれ、温かみある家庭的な雰囲気です。利用者の日常を支える介護計画は、個別性の高い詳細な計画が作成されかれて安心な生活を提供しています。敷地内の菜園では、種蒔きをし、秋には収穫し職員とともに漬物作りなど、自然と人とのふれ合いの中で一人ひとりのペースでできることをゆったりと行ないながら暮らしています。開設して3年を経過し、現在では地域との交流も近所の住民の理解を得ながら深まりを見せており、地域に密着したグループホームづくりが着々と続けられています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前年評価で指摘された緊急時における職員の応急対応については、救急救命講習会に参加し、全体会議で研修を行なうなど改善が見られます。服薬支援については薬剤の理解や誤薬防止に服薬確認の徹底を促し、また利用者への職員対応のレベルアップについては、新人職員の研修の充実など現在も改善課題についての取り組みが継続されています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価には職員が取り組み、自らのケアサービスについて見直しを行ない、各ユニットごとに取りまとめて作成していますが、自己及び外部評価を更に活用するために、評価の意義について職員間で理解を深めるとともに、改善シートの活用により計画的な取り組みを期待します。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの概要、行事内容、評価報告、町内会行事などについて、話し合いがされていますがメンバーの範囲を拡大しながら、沢山の方々の意見を頂くなど配慮を望みます。また、利用者が地域の一人として安全かつ安心のなかで暮らせるよう、災害時における地域ぐるみの協力体制なども活発に意見交換し、ホームの運営に役立てる取り組みを期待します。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時には、利用者の暮らしぶりや健康面での報告をしながら、気軽に意見、要望を話してもらえるよう配慮し、「意見箱」も設置されていますが、利用される家族は少ないようです。家族とのコミュニケーションを大切に捉えて、毎月の通信のほか、金銭管理報告時には利用者への個別対応として手紙も添えるなど、家族が望む情報をきめ細かく伝えていますが、家族からの意見や要望を引き出すため家族会の設立など工夫が必要です。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、隣接の町内会館での催しに利用者も気軽に出掛け、町内フリーマーケットにはホームとして出店参加し、介護相談窓口も開設されています。資源回収や町内清掃にも協力し、ホームの夏祭りには地域住民や家族にも声を掛け、皆で楽しめる1日を提供しています。また敷地内には菜園や犬や鶏小屋があり、子供たちとの語らいや、ゆったりと休める東屋での町内住民との交流など、温かなお付き合いが深まってきています。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの運営理念は、開設時に職員間で話し合いの上作成されており、当初より地域との関係性を重視した取り組みを実施している。さらにグループホームにおける地域密着型サービスの本質を理解し、理念の中にも言葉として盛り込み、より地域住民との交流を意識した理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内の見やすいところに明示し、ミーティングではケアサービス場面での具体的対応について、理念に結びついた話し合いが行なわれ、職員間での共有がなされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームに隣接している町内会館での集まりには利用者も出向き、また町内夏祭りへのフリーマーケット出店など、積極的な参加も行なっている。資源回収、町内清掃にも協力し、ホームの夏祭りには地域住民にも声を掛けるなど交流が深まっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価結果については、全体会議のテーマとして取りあげて、職員間で話し合いがされているが、改善への対応と活用の方では不足感が歪められない。また今回の自己評価は各ユニットごとに職員一人ひとりが記入し、まとめてはいるものの、具体的な取り組みに至っていない。	○	今後さらに評価の意義について、職員間で理解を深め、自己評価の中で浮かびあがった課題や外部評価での改善点について、改善計画シートなどを利用して話し合い、ホーム全体で共有しながら計画的な改善に向けての取り組みを期待したい。

小樽市 グループホーム あすなる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域や家族の代表、ホーム関係者などのメンバーで開催し、ホームの概要、行事、評価報告、また隣接の小規模多機能型居宅介護施設の紹介など行なっているが、メンバーの構成に手狭さが感じられる。	○	地域とのより密着した、効果ある会議を開催するため、メンバーに利用者や地域の婦人部、民生委員、地域包括支援センターなど幅広い委員で構成しすることが望ましく、また、災害時における地域住民の援助協力など利用者のも議題とするなど、活発な意見交換をし、ホームの運営に活かす取り組みを望みたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム内で開催される講習会には一緒に研修されるよう案内を行なっている。また、市の担当窓口とはホーム内の事故防止についての相談し指導を得るようにしている。	○	地域のグループホームのケアサービスの向上に向けて、評価の取り組み報告をしながら、行政の視点での智慧や情報をもらうなど、ホームからの積極的な働き掛けを行ない、協力の関係作りを望みたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月行事の写真を掲載した「あすなるだより」を送付している。利用者の暮らしぶりや心身の状況などは面会時の会話で報告している。また金銭管理報告をする際に、利用者の生活、健康面でのコメントも添えて一人ひとりに報告されており、家族が知りたい情報をきめ細やかに伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、相談窓口の案内や「意見箱」を設置されているが、現在までに苦情などは出されていないが、内在する家族の意見や要望の収集への取り組みに至っていない。	○	家族からの意見や不満、苦情の収集は、ホーム運営の質を高める点で非常に大切であり、職員全体でその汲みあげのスキルを学ぶ取り組みが期待される。また、家族会の設置検討も強く望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動があり、職員の交替が重なっているが、ローテーションの調整や利用者とのコミュニケーションの取り方を工夫し、早期に信頼関係を築くなど、利用者への影響を最小限に抑える配慮をしている。		

小樽市 グループホーム あすなろ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前年評価での改善項目であった新人職員の育成に関しては、時間をかけた研修に取り組んできている。また2ヵ月毎の全体会議ではその時々々の必要事案の研修を行なっている。外部研修については職員に都度案内はしているが、参加者は少ない状況にある。	○	職員一人ひとりの希望や力量に呼応した外部研修への積極的な参加を求め、研修後のレポートの提出や発表の機会を設けるなど、職員間での共有化を図り、職員の質の確保、向上に向けての方策を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び、介護計画担当者会議に積極的に参加している。市のグループホーム連絡協議会に参加し、研修会会場の提供や勉強会でほかのホームを訪問、見学する機会もあり、サービスの向上に向けて、グループホーム間での交流が行なわれている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に当たっては、本人の意思確認や納得のゆく入所を前提に2～3回と本人や家族と面談を実施し、顔なじみの関係を作るほか、ホーム内の見学で場の雰囲気を感じてもらいなど、利用者本人の安心や納得につながるようサービス開始に配慮した対応を行なっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が自主的に活動できる掃除や調理などを見守りながら、生活の全般を一緒に行なっている。漬物作りは人生の先輩である利用者からその技を覚えてもらうなど、ともに暮らす者として互いに支え合い、信頼し合う関係が作られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活でのコミュニケーションを通して、利用者一人ひとりの希望や思いの把握に努めている。対話の難しい人であっても行為の前段として丁寧な言葉掛けを行ない、その表情などから意向や真意を推し量り、本人本位の支援につなげている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向の聞き取りを実施し、個人記録やチャート用紙などの記録、またカンファレンスで具体的な意見やアイデアなども記録し、それらを網羅しての個別性の高い詳細な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングとして、月に1度のフロアーミーティングで利用者一人ひとりについての状況把握や変化についての理解や原因などの検討を行ない、課題分析を通して3ヵ月ごとに介護計画の見直しを行なっている。また一人ひとりの状況変化により随時見直しを実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や送迎など、必要な支援を柔軟に対応している。法人系列の小規模多機能のデイサービスなども活用し、利用者のニーズに応える支援を提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師による隔週の往診診療のほか、本人や家族の希望する掛り付け医への受診支援を行なっている。ホーム内には看護師が常勤しており、日常ケア場面での医療サポートもあり、本人にとって適切な医療支援が受けられるよう努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに重度化した利用者に対するケアサービスの提供を行なっている。家族や医療機関、また行政との話し合いを重ねながら、本人にとっての適切な支援の模索を経験してきたが、ホームとしての重度化、終末期におけるあり方についての方向性は話し合われていない。	○	今後、利用者の重度化を見据えながら、家族の意向の把握や医療機関との連携、また職員間での共有など、ホームとしての対応できる現状や限界を踏まえて、ホームとしての対応および指針の作成が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護についての理解に努め、面会カードや個人記録などの管理の徹底化が図られている。日々の生活での係わりは職員間で互いに注意し合いながら、利用者のプライドやプライバシーを損なうことのない対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての決まりごとや、生活のリズムへの配慮はあるが、一人ひとりのペースや思いの違いを理解し、尊重しながらサポートを行なっている。ゆったりと時間をかけた食事や入浴、また買物やお寺参りなど、本人の希望する外出などできるだけ過ごしたい時間の使い方に添う支援に取り組んでいる。		

小樽市 グループホーム あすなろ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者一人ひとりのできることや、楽しみごとを見出し、見守りながら一緒に食材の刻みや、盛り付け、配ぜんなどを行なっている。庭で飼育されている鶏の卵が食卓に上ることもあり、さりげない食事介助をしながらも、家庭的で穏やかで笑いのある食事支援を実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日を設定しているが、利用者の身体状況や希望により柔軟に対応している。夜間の入浴の希望がなく現在は午前、午後の時間での入浴である。広い浴室には木の香りある檜風呂が設置され、ゆったりと気持ちの良い入浴支援が行なわれている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	飼育している鶏のえさ作りやトイレ掃除など自らの役割や生活の張りとして活動されている人も居る。居室掃除や洗濯物のたたみ、将棋や裁縫、隣接のデイサービスに出向いてのマージャンなど利用者の趣味や力量を活かす、気分転換や気晴らしの機会は多く提供されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内には菜園があり、動物も飼育されている。東屋（休み所）が設置され、利用者は日常的に散歩や日光浴に戸外にでている。また車での買物や彼岸のお参り、花見や果物狩などの外出も計画、実施されていて、本人の楽しみや希望や習慣に応じた外出支援を行なっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、防犯上の配慮により夜間のみ施錠している。各ユニットには小さなミラーの設置や台所の小窓で、ユニットの出入りの確認を行なっているが、現在夕方5時30分～翌10時までは施錠されており、ホームの開放感が阻害されている	○	職員による利用者の動向の把握や、見守り体制の充実を図り、開錠の時間延長を図るなど、開放されたホームのあり方への取り組みを期待したい。

小樽市 グループホーム あすなろ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時マニュアルが整備されており、年に1～2回の火災訓練の実施や消防本部主催の自衛消防訓練に参加しているが、夜間の避難には不安が残るほか、地域住民の協力依頼など十分とはいえない。	○	運営推進会議を活用して、周辺地域の人達からの災害時の協力を得られるような日頃からの働き掛けや、夜間など様々な場면을イメージしての実践的な避難訓練への取り組みを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週2回の自由メニュー以外は、法人の栄養士が栄養バランスやカロリーに配慮した献立を作成している。利用者一人ひとりに食事や水分摂取量を把握し、身体状況や好み、習慣に応じた取り組みを行なっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物の鉢物が置かれている窓辺に向かい、ゆったりとしたソファが設置され、大きな食卓や廊下のベンチや椅子など利用者が自由に過ごせる場の工夫がされている。音楽や陽光、室温なども適切に調整されている。年代物の日用品や装飾類が飾られており、ゆったりとして家庭の延長としての落ち着ける空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスや椅子、テレビなどの使い慣れた物品のほか、好みの寝具や仏壇など、個人の生活スタイルに合わせた調度品が持ち込まれている。その人の大切な思い出である表彰状や写真も飾られており、利用者本人にとっての安心感ある心地の良い居場所になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。